

kanagawa ARTS PRESS

神奈川芸術プレス Vol.146

2 | 3
2019



CREATOR'S VOICE 165

小池ミモザ Memory of Zero メモリー・オブ・ゼロ

©平岩 亨

いま
滅亡の街と化した劇場空間で、ダンスの現在を映し出す「Memory of Zero」
劇団四季ミュージカル「パリのアメリカ人」KAATで3月開幕！
共生共創事業——高齢者創作創造プロジェクト

隔月刊：奇数月15日発行

アーティスト同士がぶつかり合い、刺激を受けるのがコラボレーションの面白さ。興味深いアーティストの方々と一緒に、一つのモノを創り上げるのは誇りであり楽しみでもあります。

一柳 慧×白井 晃
神奈川芸術文化財団芸術監督プロジェクト
Memory of Zero メモリー・オブ・ゼロ

神奈川県民ホール

小池ミモザ

ダンサー



神奈川芸術文化財団の芸術総監督を務

める作曲家・ピアニストで2018年秋に

文化勲章を受けた一柳慧。K A T 神奈川

芸術劇場の芸術監督で演出家・俳優の白

井晃。二人が芸術監督プロジェクトとして

タッグを組む第3弾Memory of Zeroでは

一柳が音楽を、白井が構成・演出を担い、振

付に国内外で活躍する遠藤康行を迎える。

話題沸騰のコラボレーションに出演す

る小池ミモザは、現代バレエを代表する

振付家、ジャン・クリストフ・マイヨー

率いるモナコ公国モンテカルロ・バレエ

団のプリンシパル(最高位のダンサー)と

して名匠の創造欲を刺激すると共に自作

発表も行う。エッジな感性に今までの軌

跡やクリエイターとしての心構え、公演

への抱負を聞いた。

自然体で歩んできたプロへの道程

——ダンスの道に進まれたのはどうしてですか？

昔から音楽を聴くのも体を動かすのも

好きでした。両親は私が踊りに向いてい

るのではないかと考え、6歳の時バレエ

スタジオに連れて行ってくれました。最

初は遊び半分みたいなところもありまし

たが、ある日——それがいつかは覚えて

いないのですが——真剣にやっていたかな

ければいけないことだと自覚しました。

クラスレッスンに真剣に取り組もう、

ダンスを学びたいからフランスに行こう、

フランス語が必要だから勉強しよう……

と目の前のことを一つひとつ一生懸命やっ

てきたことが今につながっています。素晴

らしいダンサーになりたいとは思っていま

したがモンテカルロ・バレエ団のプリンシ

パルになるというような大きなゴールを

目指していた訳ではありませんでした。

——15歳の時、フランス国立リヨン・コ

ンセルヴァトワールに入学されました。

私は背が高いので日本にいてもダン

サーになれないと考えていました。リヨ

ンはバリと違って大き過ぎずちょうど良

小池ミモザ Mimoza Koike

フランス国立リヨン・コンセルヴァトワールを首席卒業。2001年スイスのジュネーブ・バレエ入団。03年モナコ公国モンテカルロ・バレエ団に移籍し、05年最年少でソリスト、10年プリンシパルに昇格。10年より芸術研究機関Le Logoscopeで舞台芸術部門のディレクションを務め、16年ヴァイスプレジデントに昇格。15年モナコ公国より日本人ダンサー初シュバリエ文化功労勲章を受賞。JAPON dance project メインメンバー。





©平岩 亨

い環境の街です。コンテンポラリーダンスやネオクラシックのレベルが高いと聞いていたので、最初からそこに興味を持っていました。リヨンの学校には音楽部門もあり、毎週のようにコンサートが開かれ、生の音楽に触れる機会もあって良い刺激になりました。リヨンであらゆることを学び、バレエのベースが整いました。

——卒業後2001年にスイスのジュネーブ・バレエに入団し、03年にモナコ公国モンテカルロ・バレエ団に移籍されます。

リヨンにいた時にモナコで世界各地のバレエ団のディレクターが集まるオーディションがあり、そこでジャン・クリストフ・マイヨーに声をかけられました。でも契約の空きがなく、ジュネーブに行きました。ジュネーブで踊ってよかったのは、いろいろなクリエーションを経験させてもらったことです。1年半後にディレクターが替わり、その時マイヨーのところになちよつと空きがあったので入りました。

マイヨーはいろいろな芸術に興味を持っている素晴らしいディレクターで、なかでもシネマが好きな人です。映画のように自然な会話に見えるように、リアクションのタイミングを気にするんですね。音楽性を大事にしている、メロディーが体から出てくるかのようにムーブメン

トを創ります。そこがすごく勉強になっていて、私自身が振付をする時も、ひとつひとつのジェスチャーが何を語っているのかをはっきりさせるようにしています。

クロスする表現の可能性、 新たな観客との出会いを求めて

——ご自身でも創作活動をされていますね？

舞台には生きる中で経験をしたさまざまなことが反映されるのでチャンスがあれば振付をやりたいと願っていました。きっかけはバレエ団のツアーでいろいろな国に行く時に写真を撮るだけでは物足りなくビデオを持っていったことでした。面白い場所、たとえばエレベーターの中とか駐車場の屋上とかで即興で踊り収録しています。場所が違うと出てくる動きが変わってくるので、それをどう表現し、どう面白くできるかを常に考えています。

——2010年よりモナコ公国の芸術研究機関Le Logoscope(ロゴスコープ)の舞台芸術部門のディレクションを行い、16年にはヴァイスプレジデントになりました。

ある時、どうしてモナコにバレエ・リュス*がいたのだろうかと思ったんです。パレエ・リュスにはコクターやシャガール、

一柳 慧×白井 晃 神奈川芸術文化財団芸術監督プロジェクト

Memory of Zero メモリー・オブ・ゼロ

2019年3月9日(土) 18:00・10日(日) 15:00 神奈川県民ホール〈大ホール〉

I 身体の記憶 Memory of Body

II 最後の物たちの国で In the Country of Last Things

原作: ポール・オースター 訳: 柴田元幸

[演奏楽曲] 一柳 慧: 交響曲第8番 リヴェレーション2011 他

音楽: 一柳 慧 構成・演出: 白井 晃 振付: 遠藤康行 指揮: 板倉康明

ダンス: 小池ミモザ 鳥居かほり 高岸直樹 引間文佳 遠藤康行 他

演奏: 東京シンフォニエッタ

全席自由(整理番号付・特設席) 一般6500円 学生(24歳以下・枚数限定)3000円 ◎両日ともアフタートークを予定

※本公演では、舞台上の特設席を使用いたします。当日はチケットに記載の番号順にご入場いただけます。詳しくはホームページ等で発表いたします。

www.artspress.jp



このマークの記事にはWEB版だけの+αコンテンツも!

ピカソ、シャネル、ストラヴィンスキーが関わりモノコで創作していました。モノコは東京やパリと違い若い子にとつて刺激が少ないかもしれないかもしれませんが自然がいっぱいあります。私はカジノには興味がありません(笑)、何か自分たちで面白いことをしたいという気持ちが湧いて「Logoscope」に入りました。そこには美術や音楽、映像を仕事にしている人がいて、自分たちができることをクロスしてプロジェクトを行います。バレエ・リュスがやっていたことをつなげているんですね。アイデアをぶつけあい、何かを創ることで、自分一人では行けないところへ行ける。それって、すごく大変だけれど価値があると思います。いろいろな人に刺激をもらえるのが好きなんです。

いろいろなイメージに柔軟に順応し、自在に変化していきたい

——「Memory of Zero」の振付を担当する遠藤康行さんとはモノコで立ち上げたJAPON dance projectのメインメンバー同士で協同作業が続きます。

遠藤さんとの初仕事は神奈川県民ホールでも上演した「オールニッポンバレエガラ2012」で遠藤さん振付の『3ミPasacaglia』に出演した時です。遠藤さ

ん、柳本雅寛さんと踊り、一緒に創った感じがありました。遠藤さんがやりたいイメージを私のやり方でみせると「それ!」となるんです。マイヨーとのクリエーションも同じようなところがあって、彼の頭の中が見えてくるので先回りして踊ってみると「それだ」という反応が返ってきます。そのやりとりが楽しい。遠藤さんたちと5人のメンバーで結成したJAPON dance projectでは、5人のアーティストが一つのモノを創り、ぶつかり合い、刺激をもらっています。

——「Memory of Zero」は「身体の記憶」、II「最後の物たちの国で」から成ります。どのように関わられるのですか?

現時点(2018年10月末)で「最後の物たちの国で」の主役のアンナを踊ることが決まっています。一柳さん、白井さん、遠藤さんと一緒にできる面白そうなプロジェクトなので絶対にやりたいと願いました。テキストをいただいているので、それをどのように舞台上にいくのだろうかというイメージを膨らませ、自分の中で「額縁」のようなものを作っています。いろいろなイメージにアダプトできるようにしておくためには柔らかな額縁が理想です。今はそれを作っておいて、いろいろな色や形に変化できればいいと考えています。

——公演に向けての抱負をお聞かせください。

興味深いアーティストたちが集結して一つのモノを創るプロセスに参加できることが誇りなので精一杯表現したいと思っています。皆のいろいろな色や形を合わせながら一つのモノを創ることができ、お客さまに見ていただけるのが楽しみです。*バレエ・リュス・セルゲイ・ディアギレフが1909年に創設した伝説的なロシア・バレエ団で、優れた舞踊家のほか、画家、作曲家、詩人が関わりバレエを総合芸術として革新した。

my hall myself

私にまつての神奈川県民ホール

2015年と18年の夏、「横浜・パレエフエスティバル」に呼んでいただき普段会えないダンサー仲間たちと再会し、中華街で中華を食べたりした楽しい思い出があります。今回の公演チラシの撮影で普段入れないようなホールの地下や裏も見せていただきましたが、働いている皆さんの感じもよく、自分の家にいるような親近感を抱いています。「ここでまた仕事したい!」と思わせるエネルギーを持つ劇場です。春の時期に来たことがないので楽しみです。

取材・文: 高橋森彦





上段左から 板倉康明 ©SUNTORY FOUNDATION for ARTS / 一柳 慧 ©Koh Okabe / 白井 晃 ©二石友希 / 遠藤康行
下段左から 引間文佳 ©大洞博晴 / 小池ミモザ / 鳥居かほり / 高岸直樹

一柳 慧 × 白井 晃 神奈川芸術文化財団芸術監督プロジェクト

Memory of Zero

メモリー・オブ・ゼロ

神奈川県民ホール

滅亡の街と化した劇場空間で、ダンスの現在を映し出す

神奈川芸術文化財団の芸術総監督で、作曲家・ピアニストの一柳慧。K A A T

神奈川芸術劇場の芸術監督で、演出家・俳優の白井晃。それぞれの分野の第一線で活躍する二人の芸術監督が、共同で新しい芸術表現を追求する「芸術監督プロジェクト」。初回は2016年9月にK A A T神奈川芸術劇場で、美術展示とのコラボレーションによるダンス・音楽プログラムを、第2弾は2017年1月に神奈川県立音楽堂で、一柳慧・音楽監督、白井晃・空間監修による演奏会を開催しました。3回目となる今回は神奈川県民ホールの大ホールで、ダンスパフォーマンスを上演。一柳慧が音楽を、白井晃が構成・演出を手掛けます。

「身体と記憶」をテーマに創る二つのダンスパフォーマンス

一柳は1950年代のアメリカで、ジョン・ケージを通じて交流を深めたモダンダンスの草分け、カニングハムらと前衛的音楽活動を展開するなど、常に時代の最先端でダンスとのコラボレーションを試みてきました。白井もまた、1980年代からコンテンポラリーダンスに注目し、振付家としてのクリエイションや、K A A T D A N C E

一柳 慧×白井 晃 神奈川芸術文化財団芸術監督プロジェクト

Memory of Zero メモリー・オブ・ゼロ

2019年3月9日(土) 18:00・10日(日) 15:00 神奈川県民ホール〈大ホール〉

I 身体の記憶 Memory of Body

II 最後の物たちの国で In the Country of Last Things

原作:ポール・オースター 訳:柴田元幸

[演奏楽曲]一柳 慧:交響曲第8番 リヴェレーション2011 他

音楽:一柳 慧 構成・演出:白井 晃 振付:遠藤康行 指揮:板倉康明

ダンス:小池ミモザ 鳥居かほり 高岸直樹 引間文佳 遠藤康行 他

演奏:東京シンフォニエッタ

全席自由(整理番号付・特設席) 一般6500円 学生(24歳以下・枚数限定)3000円 ©両日ともアフタートークを予定

※本公演では、舞台上の特設席を使用いたします。当日はチケットに記載の番号順にご入場いただけます。詳しくはホームページ等で発表いたします。



SERIES”のプログラミングに取り組んできました。その二人が、今回あらためて「ダンスとは何か?」「身体はどこへ向かうのか?」という問いに立ち返り、「身体と記憶」をテーマにしたダンス作品の創造に挑みます。

第一部は「身体の記憶」と題した作品。クラシックバレエからモダンバレエが生まれ、モダンダンス、そしてコンテンポラリーダンスの時代へ……。一柳の音楽とダンサーの身体が絡み合い、交錯し、ダンスの変遷を旅します。

第二部は、アメリカの作家ポール・オ



2018年11月、神奈川県民ホールで出演ダンサーオーディションを開催。130名を超える素晴らしいダンサーが集まり熱気あふれるパフォーマンスを繰り広げました。

スターの小説「最後の物たちの国で」を基にした作品。主人公アンナ(小池ミモザ)が消息不明の兄を追い、行き着いたのは、何もかもが破滅へと向かい限りなくゼロに近づく世界。飢えや略奪、悪夢のように悲惨な出来事に次から次へと巻き込まれ、疲弊したアンナが、

最後に見出す希望とは……。? 滅亡の街と化した空虚な劇場空間に、一柳慧が東日本大震災を機に創作した大作「交響曲第8番 リヴェレーション2011」が響き始めます。

劇場空間をゼロから見つめなおすステージ・オン・ステージ

神奈川県民ホールでは、1975年の開館以来、クラシックバレエからコンテンポラリーダンスまで、歴史に残る国際的な名演が繰り広げられてきました。今回はその巨大な劇場空間をゼロから見つめなおし、舞台上に特設席を設置するステージ・オン・ステージの形式により、ダンサー、演奏家、観客が共に舞台上がり、濃密に絡み合い、ダンスそして芸術の現在を映し出します。



世界を牽引するアーティストたちの刺激的なコラボレーション!

一柳慧が音楽を、白井晃が構成・演出を担当。振付に迎えるのは、横浜バレエフェスティバルの芸術監督など振付家・ダンサーとして多彩な才能を発揮する遠藤康行。ダンスは、モナコ公国モンテカルロ・バレエ団プリンシパルで圧倒的な存在感を放つ小池ミモザを中心に、国内外で活躍する個性豊かなダンサー陣が務め、オーディションで選ばれた精鋭が脇を固めます。音楽は、現代音楽のスペシャリスト集団で、一柳も厚い信頼を寄せる室内オーケストラ、板倉康明&東京シンフォニエッタが演奏します。世界のクリエーション現場の最前線に立つトップアーティストによる、斬新かつ刺激的なコラボレーションにご期待ください!



劇団四季

ミュージカル「パリのアメリカ人」

2019年3月19日(火)～8月11日(日・祝)

KAAT神奈川芸術劇場(ホール)

作曲:ジョージ・ガーシュウィン

作詞:アイラ・ガーシュウィン

脚本:クレイグ・ルーカス

演出・振付:クリストファー・ウィールドン

出演:劇団四季

全席指定

S 11880円

A・サイドA 8640円

B・サイドB 6480円

C・サイドC 3240円

サイドイス付立見 3240円

劇団四季予約センター

0120-489444 (10:00～18:00)

©詳細はHPをご覧ください。

www.kaat.jp/d/aaip



Original London Company

FOCUS

劇団四季 ミュージカル「パリのアメリカ人」

KAAT神奈川芸術劇場

ガーシュウィンの珠玉の名曲で綴る この上なく美しい劇団四季の最新ミュージカル



Robert Fairchild and Leanne Cope

上下とも Photo by Johan Persson

2019年、劇団四季は心も躍る上質なミュージカル「パリのアメリカ人」をお届けします。

1952年にアカデミー賞を受賞し、アメリカ音楽の魂と称されるガーシュウィン兄弟の代表曲が散りばめられた同名映画に想を得たこのミュージカル。

映画の内容をさらにふくらませた物語と、イマジネーションをかきたてる豊かなダンスによって初めて舞台化され、2014年にパリで公演がスタート。翌年にはニューヨーク・ブロードウェイに進出。トニー賞で4部門に輝きました。

演出・振付を担当したのは、英国ロイ

ヤル・バレエ団アーティストリック・アソシエイトとして、「不思議の国のアリス」等、数々のバレエ作品を手掛ける世界的な振付家、クリストファー・ウィールドン。めくるめくようなダンスで、パリに生きる若者たちのロマンスを描き出します。

また劇団四季の「リトルマーメイド」「アラジン」などでも知られる、ボブ・クローリーによる舞台美術も見どころのひとつ。すべてが洗練されたアートとなつて溶け合い、観客を魅了します。

舞台は第2次世界大戦直後のパリ。アメリカの退役軍人ジェリーは、友人である作曲家アダム、ショーマンに憧れるフランス人アンリと共に、暗い時代に別れを告げ、新たな人生を歩もうと夢見ています。ある時ジェリーは街で見かけたパ RJ ズエンヌ、リズにひと目で恋に落ちます。しかしリズはアンリの婚約者。恩のあるアンリと、愛するジェリーの間で揺れ動くリズ。パリが支配から自由解放へと大きな変貌を遂げ、しだいに光が満ちていく中、夢を追いかける若者たちの愛と友情の行方は……。

戦争に傷ついたパリの街で、若者たちが新しく見出す、芸術と愛の光。深い感動を呼びおこす、上質で洗練された大人のためのミュージカルをお届けいたします。

市原 愛(ソプラノ)
©Akira Muto林 美智子(メゾ・ソプラノ)
©toru hiraawa

加来 徹(バリトン)

「春めき桜コンサート」 春の歌声～祈りとともに～古今東西の春を感じて～

神奈川県立音楽堂出張公演

南足柄固有の品種「春めき桜」が、ソメイヨシノより一足早い春を告げる頃、南足柄市文化会館にも春が訪れます。春を彩るのは、いずれも卓越した歌唱力と華やかな佇まいで聴く人を魅了する市原愛(ソプラノ)、林美智子(メゾ・ソプラノ)、加来徹(バリトン)。古今東西の豊かな歌の世界を、3人の楽しいお話を交えて堪能できる贅沢なコンサートです。

改修休館中の音楽堂が南足柄でお届けするあたたかいひととき、ゆったりと音楽でお花見を楽しみませんか。

2019年3月10日(日) 14:00

南足柄市文化会館(愛称:金太郎みらいホール)〈大ホール〉

出演:市原 愛(ソプラノ) 林 美智子(メゾ・ソプラノ)

加来 徹(バリトン) 石野真穂(ピアノ)

南エコーコーラスの皆さん

全席指定 一般1000円 子ども(4歳~中学生)500円 車椅子席あり(付添1名無料)



チェンバロの魅力V(2016)より

2019年3月27日(水) 14:00 神奈川県民ホール〈小ホール〉

出演:大塚直哉(チェンバロ・お話)

ルイ・クーブラン:組曲ニ短調

J.S.バッハ:プレリュードとフーガ、アレグロ BWV 998

フランソワ・クーブラン:8つのプレリュード

松岡あさひ:委嘱作品 他

全席指定 一般2000円 学生(24歳以下・枚数限定)1500円

【関連企画】終演後にチェンバロ公開レッスンあり ※本講座のチケットで聴講できます。



第101回舞台芸術講座

チェンバロの魅力VI Ecouter~聴く

神奈川県民ホール

大塚直哉の演奏とわかりやすい解説が人気のレクチャーコンサート「チェンバロの魅力」。第6弾は「Ecouter」聴くをテーマに古今のプレリュードの名曲をお贈りします。「美しく減衰していくチェンバロの音色に耳と心をかたむけ、余韻を味わう。そんな豊かな時間がチェンバロのために作曲されたたたくさんの《プレリュード》(前奏曲)のもともとの姿なのでは」と語る大塚氏。時間に追われる現代、神奈川県民ホールの古いフランス様式で丁寧につくられたチェンバロの音色に身を委ね、贅沢なひとときを過ごしませんか。



José Maceda,
Cassettes 100, 1971
Photos by
Nathaniel Gutierrez,
Courtesy of UP Center
for Ethnomusicology
and Ringo Bunuan

賞・参加可能です。

TPAM(ティーパム)は、アジアと世界の舞台芸術の最新動向を伝える公演プログラム。国内外の重要なフェスティバル・劇場・芸術文化団体などに従事する舞台芸術関係者が集まる交流プログラム、日本の新人アーティストにとって観客開拓・海外公演のチャンスとなる(公募プログラム)からなる、世界有数・国内唯一の国際的舞芸芸術プラットフォームです。近年はアジア・フォークスを強化し、アジアとの国際共同製作にも参画。前回のTPAMには、46か国・地域から約400名、日本から約450名の舞芸芸術のプロフェッショナルが参加しました。また、ほとんどのプログラムは一般のお客さまも観賞・参加可能です。

2019年2月9日(土)~17日(日)

[KAAT神奈川芸術劇場での主なプログラム]

恩田 晃ディレクション

2月10日(日)〈アトリウム〉ホセ・マセダ「カセット100」

2月11日(月・祝)〈ホール〉

ホセ・マセダ「5台のピアノのための音楽」「2台のピアノと4本の管楽器」

マックス=フィリップ・アッシュエンブレンナー ディレクション

2月12日(火)・13日(水)〈大スタジオ〉ホー・ツェーニエン「神秘のライ・テク」

情報は随時更新中。詳細はP11および公式HPをご覧ください。

※チケット料金、お取り扱いは公演ごとに異なります。

国際舞台芸術ミーティング in 横浜事務局 03-5724-4660

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019

(TPAM in Yokohama 2019)

KAAT神奈川芸術劇場



安藤洋子

安藤 洋子 (あんどうようこ)

1967年1月1日横浜生まれ。木佐貫邦子に師事。2001年アジア人として初めて、鬼才の演出家ウィリアム・フォーサイスの目にとまりフランクフルトバレエ団に入団。メインソロダンサーとしてフォーサイスの40作品をドイツを拠点に世界各国で踊る。現在は日本とNYを拠点にアーティストとして自己の身体表現を模索するとともに、経験を生かした芸術教育にも力を注ぐなど精力的に活動。

共生共創事業



神奈川県では、県の重点施策である「共生社会の実現」「未病」などの取組とマグネット・カルチャー（マグカル）をクロスさせ、誰もが参加できる舞台公演などの事業“共生共創事業”を、みなとみらいの“県民共済みらいホール”を拠点として実施しています。

FOCUS



Q 今回の企画の見どころ
体があるって苦しいけど、やっぱり素晴らしい。歳をとるのが悪いことにならない可能性があるが身体表現にはある。普通のダンスでなく日常的な動きが演出や映像と関わって表現になる。そのさわりを見せたいと思っています。

Q 日頃はどのような活動を
2年前に拠点をドイツから横浜に移しました。ダンサーとしては一生現役。教育面では、プロを目指しているダンサーから子どもたちまで指導をしています。今度は高齢者企画。自分もこれから老人になるしね(笑)。

かながわ高齢者創作創造プロジェクト「チャレンジ・オブ・ザ・シルバー」
このプロジェクトは、シニア世代による身体表現への参加の拡大を目指しています。今回はその一つ、世界的ダンサー・安藤洋子さんによるプロジェクトについて、芸術表現にどんな可能性があるのか、また県域で予定している参加型ワークショップについても、身体を使った実演付きの説明会を行います。

かながわ高齢者創作創造プロジェクト
「チャレンジ・オブ・ザ・シルバー」説明会
2019年3月15日(金) 15:00 県民共済みらいホール
出演:安藤洋子 他 無料

2018年度人材育成講座実績

- 7月17日(火) 第1回 キックオフレクチャー
- 8月23日(木) 第2回 障がい者と舞台芸術(1)
- 9月11日(火) 第3回 障がい者と舞台芸術(2)
- 10月15日(月) 第4回 高齢者と舞台芸術～現在の動向について～

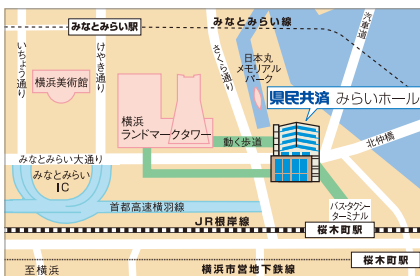
共生共創事業シンポジウム

2019年3月22日(金) 14:00～16:30 県民共済みらいホール

出演: 太下義之(文化政策研究者)
佐野晶子(共生社会のための舞台芸術アドバイザー) 他
無料(先着順・要事前予約)
※詳細は共生共創事業ウェブサイトから確認、お申込みください。



共生共創事業
「人材育成講座&シンポジウム」
共生共創事業では、昨年7月のキックオフレクチャーをはじめ、全4回の人材育成講座や参加型ワークショップを開催してきました。
3月のシンポジウムでは、太下義之氏、佐野晶子氏に再び登壇いただき、2018年度の活動紹介や育成講座の成果を共有し、今後の事業展開について、参加者からも意見をいただきました。



access

県民共済 みらいホール 横浜市中区桜木町1-1-8-2 県民共済プラザビル1F

- JR 根岸線「桜木町」駅下車 徒歩約3分
- 横浜市営地下鉄「桜木町(県民共済プラザ前)」駅下車 徒歩約7分
- みなとみらい線「みなとみらい」駅下車 徒歩約10分

※一部事業について、別会場で開催するものもございますので、必ず会場をご確認ください。※駐車場はございません。

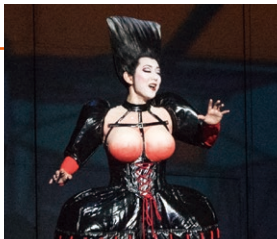
主催: 神奈川県 協力: 神奈川県民共済生活協同組合 公式サイト kyosei-kyoso.jp



とも生きる: ME-BYO®

県民共済





華麗なアリアを歌う「魔笛」の夜の女王は、コロラトゥーラ・ソプラノ
神奈川県民ホール・オペラ・シリーズ2018 出張公演「魔笛」(宮本亜門演出)より

©青柳聡

音楽の小箱

声種—オペラ配役の基本

知れば、
知るほど、
好きになる

声種は、音楽の基礎であり、オペラ配役の基本です。声域の高い順からソプラノ、メゾソプラノ、アルト(以上、女声)、テノール、バリトン、バス(以上、男声)。オペラでは、役柄に合わせて各声種の声質に合わせてさらに細分化しています。その主だったものをご紹介します。

ヒロイン役を席捲するソプラノは、超高音を急速なパッセージで歌う「コロラトゥーラ」、若く可憐な「レジーエーロ」、レジーエーロより重く女王やお嬢様などの役まわりの「リリコ」のほか、リリコより重く強い「リリコ・スピント」、さらに強靱で重量感があり劇的な表現に相応しい「ドラマティコ」などがあります。

メゾソプラノは、「コロラトゥーラ」や「ドラマティコ」があり、男装する女性役(ズボン役)もメゾの役割です。

アルトの役は、17世紀までカウンターテナーフルセット(裏声の男声)が歌っていました。男声から女声に交代するなかで、ドイツでは喜劇的な役柄の「コーミッシャー」、悪魔的な「ドラマティッシャー」という声種が形成されました。

男声の花形テノールでは、「レジーエーロ」「リリコ」「スピント」「ドラマティコ」のほか、輝かしい響きの「ヘルデン(英雄) テノール」などがあります。

バリトンは、18世紀後半になってからバスと区別されるようになりま

した。ハイ・バリトンとバス・バリトンに細分され、喜劇的な役どころの「ブッフォ」や「リリック」、「ヘルデン」のほか、輝きのある「カヴァリエ(騎士)」などがあります。

バスは、「ブッフォ」のほか、深い響きの「プロフォンド」や叙情的な「カンタンテ」などがあります。

今年の10月に県民ホール・オペラ・シリーズでも上演される「カルメン」の題名役は、主にドラマティコのメゾが務めますが、ソプラノが歌うことも多々あります。その声質の違いで、男を破滅させる妖艶な女性から、強い意志を持った自立した女性と人物造形が変わってきます。どうぞお楽しみに。

楽器ミュージアム

チェンバロ

チェンバロ(伊)[英語はハープシコード、仏語ではクラヴサン]は、ピアノが登場する以前、鍵盤楽器の花形でした。発明時期や場所は不明ですが、その最古の記述は14世紀終わりまでに遡ります。バロック時代(17~18世紀半ば)に入ると、独奏をはじめ、器楽合奏の中で、あるいはオペラの伴奏として大活躍しました。

チェンバロは、鍵盤や楽器内部にはった弦など、外見はピアノとよく似ています。しかし、発音の機構はまったく別もの。鍵盤を押してハンマーが弦を「叩く」ピアノに対し、チェンバロは、鍵盤奥の柱ジャックが上がり、その先端の爪が弦を「はじく」のです。

16世紀にイタリアで、17世紀にはフランドル地方*で独自に改良と発展を重ねたチェンバロは、フランス、イギリス、ドイツの各国でさらなる発展を遂げます。とりわけ18世紀フランスでは、本体に色鮮やかで優美な絵を描き、瀟洒な猫脚を付け、5オクターブの音域をカバーする鍵盤は、音色を变化させるために鍵盤を二段構えとするなど、ルイ王朝の宮廷を彩りました。今日、このフランス様式がチェンバロの標準型となっています。

19世紀に入ると、鍵盤へのタッチの強さで音の強弱が付けられるピアノに押され、チェンバロ製作は途絶えてしまいます。しかし、19世紀末か

県民ホールのチェンバロは、典雅な響きで知られる、アトリエフォン ナーゲル社製(1994年製作 フレンチダブル マニユールハープシコード 音域F~F⁶¹鍵)

©T.Kaneiwa



ら復元が試みられ、20世紀後半には古楽器ブームのもと、再び脚光を浴びることとなりました。アーティキュレーション(音と音のつながりや区切りの仕方)を使い分け、速度テンポを揺らすなど、チェンバロは、繊細な音の変化で音楽を豊かに表現します。日本でもチェンバロに魅せられた演奏家やチェンバロ製作家が数多く活躍しています。

*オランダ南部、ベルギー西部、フランス北部にかけての地域



イラスト:遠藤裕喜奈

ジョージ・ガーシュウィン オペラ「ポーギーとベス」

ポピュラー、クラシック、二つの世界でアメリカを代表する作曲家となったジョージ・ガーシュウィン。1926年10月、ガーシュウィンは南部の黒人の世界を描いた小説「ポーギー」と出会い、オペラ化を思い立ちます。不実な女を一途に愛する報われない男の物語です。彼は原作者エドワード・ハイワードへの手紙に書いています。「『ニルンベルクのマイスタージンガー』の美と『カルメン』のドラマとロマンを合体したオペラを作りたい」と。

構想から9年後の1935年10月10日、ガーシュウィンの本格的オペラ「ポーギーとベス」はブロードウェイのアルヴィン劇場で正式に初演されます。当時、黒人キャストのみの公演は、メトロポリタン歌劇場では上演不可能でした。作品はジャズ、ブルース、ゴスペルといった黒人音楽を大胆に取り入れた画期的なもので、彼はフォークオペラと名付けています。評判は上々で、124回の連続上演となり、翌年1936年にはフィラデルフィア、ピッツバーグ、シカゴ、ワシントンに巡業しました。

しかし、評論家の意見は芳しくありませんでした。「彼は真面目な作曲家になるための必要なことを学ばなかつ

た。「気はきいているが、そこから先がない」。「ある時はオペラ、ある時はオペレッタ、あるいはブロードウェイのショーになる」などなど。批判的な評論があふれる中、友人がガーシュウィンを慰めます。「『カルメン』は当初ひどい評価しか受けなかった。でも、その後どうなったかを知っているでしょ」。この言葉はガーシュウィンを元気づけました。しかし、「カルメン」を作曲したビゼーがその後どうなったかは話しませんでした。ビゼーは初演から3か月後、「カルメン」の成功を見ることなく、36歳の若さで亡くなったのです。

巡業が終わって一年余の1937年7月11日、ガーシュウィンは38歳の若さでこの世を去ります。脳腫瘍でした。現在では「ポーギーとベス」はアメリカ・オペラの金字塔として評価されています。

ジョージ・ガーシュウィン George Gershwin (1898 ~ 1937)

アメリカの作曲家。アメリカ音楽を創ったといわれる国民的音楽家。代表作は「スワニー」、「アイ・ガット・リズム」などポピュラーソングや管弦楽曲の「ラプソディー・イン・ブルー」、「バリのアメリカ人」など。オペラ「ポーギーとベス」の挿入歌「サマータイム」はポピュラーソングとしても人気。

Creative Neighborhoods
街と住まい

第4回

「美の基準」が過去と未来の住民をつなぐ
真鶴町の新しい「コミュニティの拠点」
真鶴出版2号店



真鶴出版2号店の通りに面した風景。「真鶴出版2号店」設計:tomito architecture

©小川重雄



美しい漁港が広がる真鶴の町並み



『美の基準』の冊子

寺田真理子
横浜国立大学都市イノベーション研究院准教授。キュレーター。1990年日本女子大学家政学部住居学科卒業。90-99年鹿島出版会SD編集部。99-2001年「Towards Totalscape」展(オランダ建築博物館)、02年「ルイス・バラガン」展(東京都現代美術館)のキュレーション、企画を担当。07年～横浜国立大学大学院「Y-GSA」特任講師。18年～現職。主な共著に『Creative Neighborhoods—住環境が社会を変える』(誠文堂新光社、2017年)

相模湾を眼の前にし、背景を箱根外輪山に囲まれた美しい漁港とみかん園があり、低層の木造家屋の穏やかな集落が広がる神奈川県真鶴町。この町には、町の景観を守ろうと行政と市民が必死に闘ってきた歴史がある。

1983年、政府の「アーバンルネッサンス計画」により都市再開発促進の規制緩和、民活路線が進められ、全国各地にリゾートマンション建設を加速させた。その流れに乗り、真鶴町にも民間大型マンションが建設された。それを機に、そもそも水源・生活用水不足という状況下で、町として大型のマンション建設を受け入れるべきか、真鶴の住民たちはこの課題に真摯に向き合い議論を重ねた。そこで真鶴町は「給水規則条例」と「真鶴町まちづくり条例」を制定し、マンション開発から町を守った。

この「まちづくり条例」では、人々の生活の場や環境はその町の「美」でなくてはならないとし、それを後世に引き継ぐべき「質」として、真鶴独自の「美の基準」を設定した。その基準を場所、格付け、尺度、調和、材料、装飾と芸術、コミュニティ、眺め、という8つに分類し、69のキーワードをもとに具体的に言葉で定義している。

2018年6月、そんな背景を持つ真鶴の町に新たな「コミュニティの拠点」真鶴出版

2号店」が完成した。これは2015年に宿泊業を営もうと真鶴に生活の場を移した若手編集者の夫婦が始めた1号店をさらに出版業と共に拡張しようとする古く民家を借りて改修したものである。出入り口を増やし、前面道路に面した窓を大きくすることで、町に開かれた「コミュニティの拠点」しようとする。改修といえども「真鶴出版2号店」の佇まいからは、「建築は「ミニ」を守り育てるためである」「建築は人々の眺めの中にある美しい眺めを育てる」という「美の基準」への敬意を持って計画されていると感じる。誰もがアクセスしやすいアプローチには、施主である編集者と設計者(tomito architecture)の、地域に前向きに関わりようとする強い意志が見えてくる。

真鶴町では、この夫婦のように真鶴に移り住み、仕事を始める若者がここ最近増えてきているが、その移住の理由のひとつに「美の基準」がある。真鶴の「美の基準」は、町の共通言語となっており、真鶴の町並みを守り続けると同時に、根底に潜む「何が町の質であり、価値とは何か」という問いが、未来の住民となる若者の心を掴んだのだろう。こうした住民自身が町と真に向き合える環境こそが、Creative Neighborhoods(創造的な地域社会)ではないだろうか。

かながわ
芸能
歳時記

第17回

漁業の街を彩る子どもたちの面踊り

いなりっこ (三浦市三崎/海南神社/2月)



演目「天狐の舞」を舞う子どもたち

WEB
+a!

「いなりっこ」は、毎年2月11日に、三浦市三崎の海南神社で奉納されます。役に合わせたさまざまな面を着けた子どもたちが笛や太鼓の音に合わせて舞い演じる郷土芸能で、毎年11月に同じ海南神社で奉納される「面神楽」の子ども版です。五穀豊穡を祈願する「稲荷講」が訛って「いなりっこ」になったといわれています。

田畑を荒らす狐を退治する「種まき」、漁業の街・三崎らしく大漁と航海安全を願う「恵比寿の舞」、さらに「国がため」、「湯立」、「天狐の舞」などの演目があります。

「いなりっこ」は江戸後期に伝えられたとされ、かつては各地域で舞台が組まれ、節分や端午の節句などに賑やかに行われていたといえます。1960年代に一度衰退しましたが、海南神社青年会などが73年に復活させ、現在では三浦いなりっこ保存会により後進の育成が行われています。市の重要無形民俗文化財です。

●同時期(2、3月開催)その他の祭り

世附の百方漫公(橋上郡山北町)能安寺(2月16日・17日)
湯立獅子舞(箱根町仙石原/諏訪神社/3月27日)

住所:神奈川県三浦市三崎4-12-11 (海南神社)
交通:京浜急行「三崎口」駅から京急バス三崎港方面バスにて「三崎港」下車、徒歩3分
日程:2019年2月11日 10時頃より
お問合せ:三浦市教育部文化スポーツ課 046-881-1111

more! カナガワ

神奈川フィルハーモニー管弦楽団
定期演奏会県民ホール名曲シリーズ第4回
ヴェルディ/レクイエム

2019年2月23日(土) 15:00 神奈川県民ホール
指揮:川瀬賢太郎(常任指揮者) ソプラノ:浜田理恵 メゾソプラノ:山下牧子
テノール:宮里直樹 バス:妻屋秀和 神奈川フィル合唱団
全席指定 S 6000円 A 4500円 B 3000円 コース(25歳以下)当日のみ1000円
神奈川フィル・チケットサービス 045-226-5107 (平日10:00-18:00)
www.kanaphil.or.jp/ @kanagawaphil @instagram.com/kanagawaphil

神奈川近代文学館

企画展・収蔵コレクション展17「花田清輝展」

2019年1月26日(土)~3月10日(日) 休館日:月曜日(2/11は開館)
開館時間:9:30-17:00(入館は16:30まで) 料金:一般400円 他
「復興期の精神」など、巧みなレトリックによる評論や小説、戯曲で知られる花田清輝(1909~1974)。時代の転形期における文化の〈再生(ルネッサンス)〉を追究した足跡を、当館のコレクションをもとに紹介する。
同時開催:「文学の森へ 神奈川と作家たち」展 第1部 夏目漱石から萩原朔太郎まで TEL.045-622-6666 www.kanabun.or.jp

神奈川県立近代美術館 葉山
堀内正和展 おもしろ楽しい心と形

2018年12月8日(土)~2019年3月24日(日)
開館時間:9:30-17:00(入館は16:30まで)
休館日:月曜日(12/24・1/14・2/11は開館)、12/29~1/3
観覧料:一般1200円 20歳未満・学生1050円 65歳以上600円 高校生100円
中学生以下と障害者手帳等をお持ちの方(および介助者原則1名) 無料
TEL.046-875-2800 www.moma.pref.kanagawa.jp/

神奈川県文化課

カナガワ リ・古典 in 茅ヶ崎

「カナガワ リ・古典プロジェクト」は、神奈川県の文化遺産を、現代を生きる文化芸術として「再」発信し、その魅力を多くの方に知っていただくとともに、将来に継承していく取組です。今年度は、湘南地域の古典や伝統文化の魅力を再発見する民族芸能フェスティバルを開催します。情熱のピアニストで、神奈川県のマグカル大使も務める熊本マリさんも出演します。
2019年2月23日(土) 14:00 会場:茅ヶ崎市民文化会館
料金:大人1000円 中学生以下300円(お土産付き)未就学児は、ひざ上無料
TEL.045-210-3806 (神奈川国際文化観光局文化課)

皆さまのご支援が 神奈川の文化芸術をささえています

公益財団法人神奈川芸術文化財団では、芸術を愛する個人の皆さま、社会貢献活動にご関心のある企業の皆さまに「個人賛助会員」や「法人賛助会員」等の仕組みを通じて、ご寄付・お力添えをいただいております。

今回、「神奈川県民ホール・オペラ・シリーズ2018」で実施された共同制作オペラ「アイダ」を10月21日(日)にご覧になられた会員の皆さまに、鑑賞後のご感想をいただきました。

法人賛助会員



横浜信用金庫 理事長 大前 茂 様

私は昔ヨーロッパに勤務していたことがあり、その時に初めてアイダを観てとても感動し、以降オペラファンになったのですが、フレッシュな感動がまた呼び起こされた感じがしました。アイダ役もラダメス役も素晴らしいし、舞台装置や演出、オーケストラもよく、何拍子も揃った総合的に芸術性が高いものを見せていただきました。特にオーケストラのレベルは国際的な水準にどんどん上がっていると思います。またこのオペラは劇場同士の共同制作で、日本各地にて上演されるとのことですが良い仕組みだと思います。今後も観劇しやすい環境づくりに是非取り組んでいってください。

法人賛助会員



平安堂薬局 事務局 清水真知 様

横浜でこういうオペラを見せていただけるというのはなかなか今までなかったのでとても良い機会でした。衣裳が何ともいえない色合いで素晴らしいなと思いますし、日本人の歌手の方々も今はヨーロッパの方々と遜色がなくて、特に本日のアイダの感情豊かな表現は一緒に来た友人も涙したと言っていました。また今回プレレクチャーもあり、事前に予習できる企画がちょっとあるというのがとても良かったです。オペラの他にも多様な公演があると思いますので、東京まで行けなくてもたくさんの鑑賞の場があることを色々な方に知っていただけると良いと思います。今後もさまざまな公演が観られることを楽しみにしています。

個人賛助会員



黒瀬博靖 様

とても良かったです。歌とバレエがうまくマッチして、素晴らしい公演でした。舞台装置も凄い迫力で、今回の装置は野外オペラ級のもので11tトラック11台とのことですが、大人数のキャストとも相まって本当に物量作戦にやられたなと感じました。上演時間の3時間半というのは普通戻込みしてしまう長さだと思いますが、終わってみると長さを全く感じさせず、とても良い出来の作品だったと思います。また、このような本格的なオペラにもかかわらずチケット価格設定はまことにリーズナブルで良いと思います。私は横浜在住で県民ホールは行きやすい劇場ですので、今後の作品もとても楽しみにしています。



左右とも ©林喜代種

REVIEW

神奈川県民ホール・オペラ・シリーズ2018

グランドオペラ共同制作 ヴェルディ作曲 オペラ「アイダ」

2018年10月20日(土)・21日(日) 神奈川県民ホール〈大ホール〉

指揮:アンドレア・バッティストーニ 演出:ジュリオ・チャバッティ

出演:[アイダ]モニカ・ザネッティン/木下美穂子 [ラダメス]福井 敬/城 宏憲 [アムネリス]清水華澄/サーニャ・アナスタシア



©林喜代種

毎回大規模なオペラ作品を上演し好評を得ている共同制作オペラ・シリーズ。今年度は、県民ホール、札幌文化芸術劇場hitaru、兵庫県立芸術文化センター、iichiko総合文化センターと東京二期会をはじめ3芸術団体により、北から南まで4つの劇場で「アイダ」6公演を上演。イタリアの若き天才指揮者アンドレア・バッティストーニを迎え、グランド・オペラと呼ぶにふさわしい華やかな舞台を展開しました。なかでも第二幕《凱旋の場》は100人以上の出演者が所狭しと舞台に並び豪華な場面で、迫力ある合唱、煌びやかな衣裳、華麗なバレエ、そしてアイダ・トランペットの演奏も一層舞台を盛り上げました。満員の客席からは、熱演した歌手陣とバッティストーニ率いる東京フィルハーモニー交響楽団にスタンディングオベーションが送られました。

お客様の声

大変すばらしかったです。感動しました。管弦楽と声楽の各パートがにこることなく、美しく共鳴し、感銘しました。(40代男性)

アップテンポでエネルギーあふれる演奏、気品があり可憐なアイダが素敵でした。舞台美術、衣裳一つ一つも素晴らしい！(50代女性)

胸を打つストーリー、歌手の方々(特に主役3人)踊り手の方々、オーケストラすべてが圧倒的な迫力の素晴らしさでした。最後の二重唱、アムネリスの祈りは感動的でした。(60代女性)

公益財団法人神奈川芸術文化財団をご支援いただいている方々

公益財団法人神奈川芸術文化財団では、賛助会員制度を始めとしたさまざまなご支援の仕組みを通じて、広く皆さまからご寄附・お力添えをいただいております。

公益財団法人神奈川芸術文化財団 賛助会員

法人賛助会員 株式会社アクトエンジニアリング/アサヒビル株式会社/アズビル株式会社/学校法人岩崎学園/株式会社ヴォートル/株式会社エス・シー・アライアンス/株式会社NHKアート株式会社勝烈庵/一般財団法人神奈川県教育福祉振興会/公益財団法人神奈川県結核予防会/神奈川県信用保証協会/株式会社神奈川孔文社/株式会社神奈川保健事業社神谷コーポレーション株式会社/川崎北ロータリークラブ/川本工業株式会社/かをり商事株式会社/株式会社共栄社/株式会社ケイエスピー/株式会社KSP/株式会社合同通信コトブキシーティング株式会社/株式会社シグマコミュニケーションズ/株式会社ジェイコムイースト横浜テレビ局/株式会社清光社/月島機械株式会社/株式会社テレビ神奈川東工株式会社/ナイス株式会社/株式会社日建設計/日産自動車株式会社/日生商工株式会社/日総ブレイン株式会社/株式会社野毛印刷社/パナソニックESエンジニアリング株式会社平安堂薬局/株式会社ホテル、ニューグランド/一般社団法人本牧関連産業振興協会/丸茂電機株式会社/三沢電機株式会社/森平舞台機構株式会社/ヤマハサウンドシステム株式会社株式会社有隣堂/株式会社豊商会/株式会社ユニコーン/株式会社横浜アーチスト/横浜新都市センター株式会社/横浜信用金庫/弁護士法人横浜パートナー法律事務所横浜ビルシステム株式会社/株式会社ワイヤーソリューションズ(匿名:2社)

永年個人賛助会員 川村恒明 個人賛助会員 味田健一/岩間良孝/岡田博子/黒瀬博晴/小山明枝/高岡俊之/中澤守正/橋本尚子/藤原晴也/三宅浩二/渡邊政彦(匿名:2名)

協賛・協力

能舞台協賛 ナイス株式会社

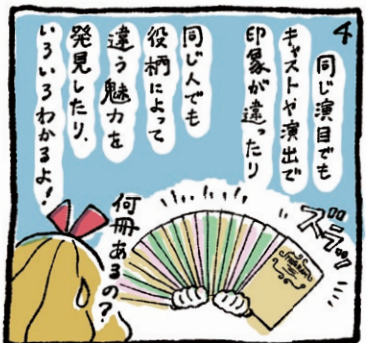
協力 神奈川総合設備株式会社/神奈川トヨタ自動車株式会社/崎陽軒/株式会社東芝/株式会社野毛印刷社/株式会社富士住建/三菱地所株式会社 (敬称略 2018年12月14日現在)

ご寄附・ご協賛・ご協力のお申込み・お問合せ: 本部経営企画課 045-633-3760 www.kanagawa-arts.or.jp/support/

劇場の達人

プログラムをもっと楽しもう!

え.ユキナ



Kame かながわメンバーズ 登録無料!
KANAGAWA members メルマガ無料配信
登録はWEBで! www.kanagawa-arts.or.jp/kame

神奈川芸術プレスはここにあります。
神奈川県内の主な公共施設の情報コーナー、首都圏の公共ホール・公立図書館・博物館・書店・銀行等に配架しております。
WEBでも読めます! www.artspress.jp

MAGCUL 神奈川県発、文化発信ポータルサイト
CUL マグカル ドット ネット
MAGCUL.NET

ご支援のお願い

公益財団法人 神奈川芸術文化財団

皆様のご支援が、 神奈川の文化と芸術を支える糧となります。

公益財団法人 神奈川芸術文化財団は、神奈川県民ホール、KAAT 神奈川芸術劇場、神奈川県立音楽堂を運営し、音楽・演劇・オペラ・ミュージカル・ダンス・伝統芸能の公演、美術展などの幅広いプログラムをお届けしています。これからも神奈川県内の文化・芸術を振興するとともに、神奈川から文化の発信を行なってまいります。皆様のおたがたいご支援をよろしくお願い申し上げます。

賛助会員
(法人・個人)

年間を通じて財団の事業全般にご賛助。

個別協賛
(法人・個人)

特定の公演等に対してご協賛。

広告スポンサー

主催公演のチラシや当日プログラム、「神奈川芸術プレス」などへの広告。

団体鑑賞

主催公演のチケットを福利厚生・販売促進等ツールとして。

弊財団への賛助会費(寄附金)には、税制上の優遇措置があります。

詳細・お申込み・お問合せ 公益財団法人神奈川芸術文化財団 本部経営企画課 〒231-0023 横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル6階
電話:045(633)3760 FAX:045(663)3714 www.kanagawa-arts.or.jp/support/

撮影:本多康司